

## ドイツ語（初級B） 第22回 nichtの位置、受動

範囲：教科書 S. 54-57（CDトラック 67-71）

### 《今回の基本例文》

73. Das Geschäft wird um acht Uhr geöffnet. (CD68-1)

そのお店は8時に開かれる。

[受動、時刻を表す um]

74. Wir werden von unserem Freund eingeladen. (CD68-4)

私たちは友人に招待されている。

[受動、行為の主体を表す von、(過去分詞 (分離動詞))]

75. Der Garten muss immer sauber gehalten werden. (CD69-1)

庭は常に清潔に保たれていなければならない。

[受動 (話法の助動詞)]

76. Die Stadt wurde durch den Krieg zerstört. (CD68-2)

その都市は戦争で破壊された。

[受動 (過去形)、行為の媒体・手段を表す durch]

77. Der Verletzte ist gleich ins Krankenhaus gebracht worden. (CD67-4)

その負傷者の男はすぐ病院に運ばれた。

[受動 (現在完了)、(現在完了 (sein 支配))、(形容詞の名詞化)]

78. In Japan wird links gefahren. (CD70-1)

日本では車両は左側通行である。

[自動詞の受動]

79. Die Hotelzimmer sind schon reserviert. (CD71-3)

ホテルの部屋はもう予約が埋まっている。

[状態受動]

### 教科書コラム nichtの位置 (S. 54)

◇ **nicht** の位置については、英語の *not* に比べてやや複雑な規則がある。**nicht** と **kein** の使い分けの説明のときにやや触れた (教科書 S. 28) が、ここでもう少し詳しく解説する。ただし、どちらかといえば中上級者向けの文法事項であり、現段階ではざっと目を通してもらえればよい。

◇ 部分否定の場合、**nicht** は否定したい語句の一つ前に置く (教科書の2を参照)。

◇ 全否定の場合、

・ 基本的には文末に置く (教科書の1のa)を参照)。

・ 一方、以下についてはその限りではないので注意 (教科書の1のb)、c)を参照)。

- ◇ 全否定であるにもかかわらず **nicht** が文末に来ないのは、
- ・文末に動詞要素（話法の助動詞を含む文における不定詞、現在完了における過去分詞、受動における過去分詞）がある場合  
→ **nicht** は**不定詞**や**過去分詞**の一つ前。
  - ・文末に分離動詞の前綴りがある場合 → **nicht** は**前綴り**の一つ前。
  - ・文末に述語内容語がある場合 → **nicht** は**述語内容語**の一つ前。
  - ・文末に動詞と熟語的に結びついた前置詞句がある場合 → **nicht** は**前置詞句**の一つ前。  
\* 教科書 S. 24 の[5]や S. 53 の[3]で学んだ熟語など。
  - ・文末に移動の目的地を示す前置詞句がある場合 → **nicht** は**前置詞句**の一つ前。  
(例) Er fährt heute nach Berlin.  
→ Er fährt heute nicht nach Berlin.
  - ・文末に自立性のない目的語がある場合 → **nicht** は**目的語**の一つ前。  
\* 「自立性のない目的語」とは、教科書 S. 28 の Bescheid wissen（事情がわかってい）のような、目的語＋動詞で構成された熟語的表現における目的語のこと。  
(例) Ich weiß Bescheid.  
→ Ich weiß nicht Bescheid.
- ◇ 例文の **nicht A, sondern B** は「A ではなく B」の意味（英語の *not A but B* に相当）。

#### 教科書第 14 課 A. 受動 (S. 55)

##### 教科書[1] 受動の現在人称変化 [2] 受動の時称

- ◇ ドイツ語の**受動態**（動作受動）は、**werden＋過去分詞**によってつくられる。意味は「～される」。

\* 英語の受動態が *be*＋過去分詞なのと異なる。なお、ドイツ語でも *sein*＋過去分詞というかたちは存在するが、その場合は状態受動と呼ばれる特殊なかたち（「～されている」）となる。（⇒教科書 S. 57）

- ◇ **受動の現在形**は、**werden** を定動詞第 2 位の位置に置き、**過去分詞**を文末に置く語順となる。図式化すれば、

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	werden の現在人称変化形	…	過去分詞

この **werden** を過去人称変化形（*wurde* など）に変えれば、**受動の過去形**ができる。図式化すれば、

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	wurde の（過去）人称変化形	…	過去分詞

\* もちろん、定動詞以外の動詞要素を文末に置くのは、話法の助動詞を用いた文における不定詞、現在完了における過去分詞でおなじみの語順である。

◇ **受動の現在完了**は、sein を定動詞第2位の位置に置き、「過去分詞 **worden**」を文末に置く。図式化すれば、

第1位	第2位	第3位以下	文末
…	sein の現在人称変化形	…	過去分詞 <b>worden</b>

・ **worden** は **werden** の過去分詞。werden の2つの過去分詞（geworden と worden）の使い分けについては、授業第18回配付資料2「不規則変化動詞のまとめ」S.1も参照。

・ 定動詞が sein なのは、**werden** が **sein** 支配であるため。（⇒教科書 S.49）

\* 受動の現在完了は、動詞要素が3つになってしまう複雑な文であるが、日常生活でも比較的よく使用されるため、覚えておいた方がよい。一方、受動の過去完了や受動の未来は、現段階では特に覚えなくてよい。

### 教科書3 能動文と受動文の対応

◇ 能動文と受動文の対応の公式は以下の通り。

能動	→	受動	備考
1格	→	von+3格/durch+4格	省略可、主語が man のときは必ず省略
2格	→	2格	そのまま
3格	→	3格	そのまま
4格	→	1格	

・ 基本的には、受動文における動作主体（英語の *by* ～）は **von+3格** で表す。

・ 動作主体を **durch+4格** で表す場合もある。

◇ 能動文を受動文に変換するとき、受動文の主語になれるのは元の文の4格目的語だけである。英語の場合、第4文型（SVOO）の直接目的語、間接目的語ともに受動文の主語になりうる。

（例）He gave her a flower.

→ ○ She was given a flower (by him).

→ ○ A flower was given (to) her (by him).

しかし、ドイツ語では、3格目的語は受動文の主語になれない。

（例）Er gab ihr eine Blume.

→ × Sie wurde eine Blume gegeben.

→ ○ Eine Blume wurde ihr (von ihm) gegeben.

### 教科書4 話法の助動詞を含む受動文 (S.56)

◇ 話法の助動詞を含む受動文（現在形）を図式化すれば、

第1位	第2位	第3位以下	文末
…	話法の助動詞の現在人称変化形	…	過去分詞 <b>werden</b>

話法の助動詞を過去人称変化形（musste、konnte など）にすれば、過去形になる。

\* 話法の助動詞を含む受動文も、受動の現在完了と同じく、動詞要素が 3 つになってしまう複雑な文であるが、日常生活でも比較的よく使用される。

\*\* 一方、話法の助動詞を含む受動の現在完了は、動詞要素が 4 つになってしまうため、あまり好まれず、過去形の方がよく用いられる。

(例) △ Der Kranke hat operiert werden müssen.

○ Der Kranke musste operiert werden.

\*\*\* なお、話法の助動詞を助動詞として用いる際の過去分詞は **ge-**がつかないかたちである。また、話法の助動詞はすべて **haben** 支配である。授業第 18 回配付資料 2「不規則変化動詞のまとめ」S. 3-4 も参照。

### 教科書 5 自動詞の受動

◇ 教科書の説明がわかりにくいので、次のように考えること。自動詞の受動は、文頭に形式主語 es を置き、werden を 3 人称単数形 (wird) に変化させてつくるのを原則とする。

(例) Bei uns arbeitet man auch samstags.

→ Es wird bei uns auch samstags gearbeitet.

◇ ただし、形式主語 es が文頭に来ないとき (ほかの文成分が文頭に来るとき)、この es は必ず省略されることになり、主語のない文ができあがる。

(例) → Bei uns wird ~~es~~ auch samstags gearbeitet.

→ Auch samstags wird ~~es~~ bei uns gearbeitet.

\* 文頭に来ない形式主語 es は、いつでも省略してよいわけではない。ほかの場合については、教科書 S. 58 を参照。

### 教科書 6 状態受動 (S. 57)

◇ 状態受動 (～されている) は、sein + 過去分詞によってつくられる。語順は動作受動と同じで、図式化すれば、

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	sein の現在人称変化形	…	過去分詞

\* 英語の *be* + 過去分詞と混同しないように注意。ドイツ語の場合、動作受動 (～される) はあくまでも **werden** + 過去分詞である。

\*\* **sein** 支配の動詞の現在完了も **sein** + 過去分詞だが、状態受動に用いられる動詞は必ず他動詞、sein 支配の動詞は必ず自動詞であるため、区別は可能。

#### 連絡先など

教員のメールアドレス: [tokan@nifty.com](mailto:tokan@nifty.com) 教員のウェブサイト: <http://hhasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>